



各報道機関文教担当記者 殿

10/8 防災・日本再生シンポジウム

東日本大震災からの再生・復活を目指す

この度、金沢大学では、東日本大震災で地震・津波が与えた大打撃からの日本復活を目指すシンポジウム「平成23年度大学改革シンポジウム 防災・日本再生シンポジウム」を開催します。

シンポジウムでは「北陸沿岸の地震津波防災と海洋立国推進の在り方」をテーマに地震学の専門家による地震の発生機構と東日本大震災の実態及び北陸地域の地震・津波の発生の可能性について、これを踏まえて海洋工学の第一人者が今後の津波防災の在り方について講演します。

さらに放射性汚染物質に関する専門家が福島原発事故による放射能汚染除去について、最後に、海洋立国日本の再生を目指し、国際企業人から見た国際的見地からの北陸地域振興の在り方について講演を行います。

金沢大学創基150年記念「講演会・シンポジウム」シリーズ

平成23年度大学改革シンポジウム

防災・日本再生シンポジウム

「北陸沿岸の地震津波防災と海洋立国推進の在り方」

日時 平成23年10月8日（土） 10:00～16:20

場所 石川県立音楽堂 邦楽ホール

入場無料

については、事前報道及び当日取材について、どうぞよろしくお願いたします。

本件照会先：角間南地区事務部総務課長 葛城
Tel：076-234-6809

担当：広報戦略室 松本
Tel：076-264-5024

平成23年度大学改革シンポジウム

防災・日本再生 シンポジウム

北陸沿岸の地震津波防災と 海洋立国推進の在り方

3.11 東日本大地震津波からの再生!!

- 10:00** 開会挨拶
中村信一 金沢大学長
- 10:10** シンポジウム次第説明
石田 啓 金沢大学 理工研究域 教授
- 10:20** 平松良浩 金沢大学 理工研究域 准教授
「地震の発生機構と日本海沿岸域の地震発生の可能性」
- 10:50** 宮島昌克 金沢大学 理工研究域 教授
「東日本大震災における地盤災害と今後の地震防災」
- 11:20** 佐藤慎司 東京大学 工学系研究科 教授
「2011年東北地方太平洋沖地震津波による被害と今後の津波防災」
- 12:00** 休憩
- 13:00** 間瀬 肇 京都大学 防災研究所 教授
「今後の津波研究」
- 13:30** 由比政年 金沢大学 理工研究域 教授
「日本海沿岸域の津波災害軽減に向けて」
- 14:00** 大竹臣哉 福井県立大学 海洋生物資源学部 教授
「日本海沿岸域の水産業の現状と水産施設の防災対策」
- 14:30** 休憩
- 14:45** 太田富久 金沢大学 医薬保健研究域 教授
「放射能物質を捕まえる」
- 15:15** 松見芳男 伊藤忠商事株式会社理事・先端技術戦略研究所長
「日本の再生と躍進は日本のため、アジアのため」
- 16:05** 石田 啓 金沢大学 理工研究域 教授 総括・閉会挨拶
- ◆共催 金沢大学・一般社団法人国立大学協会
◆後援 国土交通省北陸地方整備局・石川県土木部

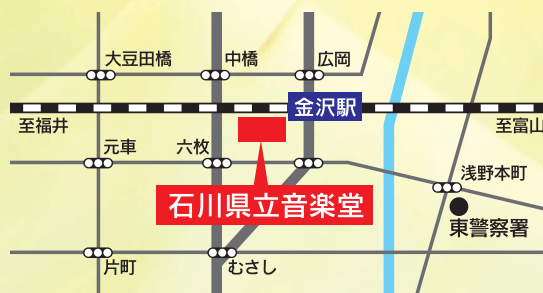
2011年

10月8日(土)

10:00~16:20

会場:石川県立音楽堂 邦楽ホール
金沢駅東口前

入場無料



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

〒920-1192 金沢市角間町 <http://www.kanazawa-u.ac.jp>

■ お問い合わせ先:金沢大学 石田 啓 研究室

TEL・FAX 076-234-4607 E-mail hishida@t.kanazawa-u.ac.jp

平成23年度大学改革シンポジウム 防災・日本再生シンポジウム

2011年10月8日(土)
10:00~16:20

テーマ

北陸沿岸の地震津波防災と 海洋立国推進の在り方

『本シンポジウムでは、東日本大地震津波が与えた大打撃からの日本復活を目指した講演を行います。午前は、地震学の専門家による地震の発生機構と東日本大震災の実態及び北陸地域の地震・津波の発生の可能性、さらにこれを踏まえて、海岸工学の第一人者が“今後の津波防災の在り方”について講演します。午後は、海岸工学委員長による“これからの津波研究の方向性”について、またこれを踏まえて、専門家が日本海沿岸域における津波災害の軽減対策及び水産業における津波防災対策について講演します。次に、放射性汚染物質に関する専門家が福島原発事故による放射能汚染除去について講演し、最後に、海洋立国日本の再生を目指し、“国際企業人から見た国際的見地からの北陸地域振興の在り方”について講演します。』

【オーガナイザー(企画構成者) 石田 啓

講演要旨

1 「地震の発生機構と 日本海沿岸域の地震発生の可能性」

平松良浩 金沢大学 理工研究域 准教授

2011年東北地方太平洋沖地震や2007年能登半島地震など、近年発生した地震を例にとり、地震や津波の起こり方について解説する。また、過去に日本海沿岸を襲った津波について紹介し、今後の日本海沿岸における津波の可能性について考える。

2 「東日本大震災における 地盤災害と今後の地震防災」

宮島昌克 金沢大学 理工研究域 教授

東日本大震災では津波による被害が甚大であったが、液状化や斜面崩壊などの地盤災害も顕著であった。仙台市における宅地地盤災害と千葉県、茨城県における液状化被害について、現地調査結果を報告するとともに、今後の地震防災について考える。

3 「2011年東北地方太平洋沖地震津波 による被害と今後の津波防災」

佐藤慎司 東京大学 工学系研究科 教授

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震津波は、北海道から千葉県に至る東日本の太平洋沿岸に巨大な津波を来襲させ、各地に甚大な被害をもたらした。講演では、自らが実施した災害調査(千葉～福島南部、岩手県陸前高田～陸中山田)と東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ<http://www.coastal.jp/tjt/>による調査結果を適宜紹介したうえで、このたび津波による被害の特性を整理し、防護と減災の二段階レベル設定など、今後の津波防災の方向性を論じる。

4 「今後の津波研究」

間瀬 肇 京都大学 防災研究所 教授

東北地方太平洋沖地震による津波被害状況の調査・検討し、その研究調査・成果を南海・東南海地震津波や日本海での津波に対していかに対処するか、どのような対策が必要かをまとめ、その成果を学術的観点から津波対策に生かすことを目標に、1)津波発生からの情報とりまとめ経緯、2)津波の概要、3)現地調査例から見たハード対策の重要性、4)報道で気になった内容、5)京大沿岸災害研究室でやってきたこと、6)今後の津波研究について述べる。

5 「日本海沿岸域の津波災害軽減に向けて」

由比政年 金沢大学 理工研究域 教授

津波による人的災害を軽減するためには、適切な避難活動がきわめて重要である。そのためには、津波の普遍的物理特性に関する知識・理解を深めるとともに、長い時間スケールで繰り返される地震・津波の地域特性を学ぶことが重要である。こうした観点から、本講演では、まず、津波からの避難を考える上で重要となる流体物理特性を紹介し、続いて、北陸・日本海沿岸域を対象に津波災害の地域特性と留意点を論じる。

6 「日本海沿岸域の水産業の現状と 水産施設の防災対策」

大竹臣哉 福井県立大学 海洋生物資源学部 教授

海洋資源の中で歴史的には水産業がもっとも利用している。その水産資源が年々減少している現状である。台風など自然災害に対し、養殖場(いけすや垂下連養殖)や定置網など固定した漁具を利用した漁業が被害をこうむる。これらの漁具の力学的特長、設計法について紹介するとともに、災害を引き起こす意外と知られていない急潮現象について説明し、その対策について紹介する。

7 「放射能物質を捕まえる」

太田富久 金沢大学 医薬保健研究域 教授

本地震津波による福島原発事故によって広範囲の地域が健康危機にさらされている。我々はこれからこの放射能汚染にどのように対処していけばよいのかを考え、さらにこの放射性物質の除去対策について述べる。

8 「日本の再生と躍進は 日本のため、アジアのため」

松見芳男 伊藤忠商事株式会社理事・先端技術戦略研究所長

3月11日以降、日本は内外において、未曾有の難局に直面している。一方、世界最速のコンピュータや、なでしこジャパン等のように、世界で活躍する日本の姿もある。グローバルイノベーション競争が熾烈化する中、内向きな日本では、世界から取り残される。日本は、科学技術と人的資源を駆使し、躍動する日本を取り戻し、明るい日本とアジアの未来に向けて行動しなければならない。

9 「総括・閉会挨拶」

石田 啓 金沢大学 理工研究域 教授

東関東大災害を乗り越え、海洋立国日本の再生を目指す決意を表明し、閉会の辞を述べる。